

新潟県

63年

公民館月報

9月
第427号

特集 学習活動を媒介の集いと交流

——高齢者学級の勘所——



富川潤一「浜焼き」

1960年制作 130.3×162.0cm (F100号)

新潟県美術博物館所蔵

作者（1907～）は栃尾市の旧家に生まれ、戦前の県展を機に安宅安五郎（洋画家、新潟市出身）に私淑。日展・光風会を中心に堅実な制作を続けている。

第11回全国公民館研究集会

新鮮だった分科会構成

函館市東高等学校を主会場に

八月四日、五日の二日間にわたり、函館市東高等学校を主会場として、第11回全国公民館研究集会が開催された。研究テーマは「生涯学習推進の中核的役割を果たす公民館」におき、千余名が参加し、12分科会に分かれて熱心な研究協議が進められた。



全員起立して「公民館の歌を斉唱」

JR青函トンネルの開通元年というこどもあつて、軒並みに続くイベントでござつた返している函館市での全国公民館研究集会であつた。今年の全国研究集会は、分科会の設置に新鮮味のある意欲的の大会であつたといえる。その一は、公民館運営審議会の活性化の重要性から、都市と町村の二分科会に細分したこと。二つめには、都道府県公民館連合会や全国公連のあり方などを課題にした分科会の新設が日新たらしい特色であつた。十一回を迎えた全国研究集会の意気ごみの

見えた大会であつた。

開会式で開会のあいさつに立つた横山正人会長は、臨時教育審議会の答申の内容や文部省の機構改革にふれながら、「われわれ公民館関係者として

重大な関心を寄せ、その施策(文部省の)を見守っていく必要がある課題として、

「家庭教育の活性化を図る公民館活動のあり方」を主題とした分科会に参加した。基調発表には、一、活性化のための効果的人材活



家庭教育部会に参加して

浅野 靖

こんで「よい映画を見る会」を結成し、地域ぐるみで教育を考える講演会等で活性化を進めていく和歌山県かつらぎ町の事例をもとに意見交換がなされた。それらの中から

教育という観点から、父親も参加しやすい学級になるような工夫。(3)職員は、従来の人集めより、出前教育の必要などであつた。また、(4)家庭教育学級は、地域の中に設定される教

- 1、社会教育に関する法令の見直し。
- 2、生涯学習基盤となる社会教育施設の時代の要請にあつた整備。
- 3、学習活動に関する指導者の養成、確保と現職の研修。
- 4、生活学習を推進するための情報提供と相談体制の整備。

が、新しく生きるための地域づくりの必要と、そのための公民館活動の役割の大きい点を指摘された。これは、北海道だけの問題ではないことの指摘として受けとめた。

記念講演では、地元函館の特別養護老人ホーム「旭ヶ関の家」の施設長フィリップ・グロッド神父による「文化と長寿」と題する講演があつた。高齢化社会の進む中で、氏の老人養護に対する心情が伝わり、参加者に深い感銘を与えた。

ている盛岡市中央公民館の事例。二、心身ともに健全な青少年の育成を目指して、「家庭・学校・地域・行政」が連携し、地域全体を巻き切。(2)家庭教育は両親

められた点は、(1)各種の学習プログラムは、住民参加の中で、今日的な問題をとらえたものを作成することが大切。(2)家庭教育は両親

主催にこだわらず、共催援助事業も積極的に取り入れていかななくてはならないなどの意見が出された。

以上、具体的な実践事例をもとにしての討議は、熱心に深められ、まことに有意義であつた。

(新潟市首野木地区 公民館長)

第39回県公民館大会

特別 寄稿 生涯学習の地域化

静岡県コミュニケーションづくり推進協議会理事 西ヶ谷 悟

第39回県公民館大会は、主題を「生涯学習社会における公民館の役割」におき、その中心課題は「生涯学習の地域化」にある。住民の生活と学習とのかわり、地域への推進体制(態勢)の問題等々、大会参加者の一人ひとりが問題を鮮明にして参加できるように、大会講師の西ヶ谷

悟氏から、あらかじめ問題提起をしていただいた。

い地域づくりを進める住民活動の拠点としての役割をどう果たしていくかである。

その(1)は生涯学習体系への移行のなかで、住民の多様な学習要求に適切に対応し、それを生涯にわたって保障するためにいかに機能するかである。その(2)は二十一世紀に向けてゆるぎない

今日、生涯学習があたかも「ブーム」の観がある。調査によれば八〇%以上の人がびとが何らかの学習要求を抱いているという。問題①は、要求を持つ者

辛 口

「あんなの頃と時代が違ふ、手が書きのポストターとナトコ」の映画で難なく人が集った、そのころの公民館活動は仕事がいやすかった、今は」とグチと嫌味をまじえていう人がいると反発をしたくない

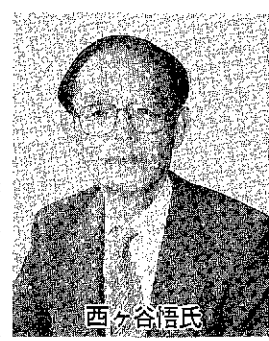
地域にとびこむ力を

梅山 八十二

なるのだという誇りを帯びていて口八丁手八丁の公民館が好きで好きでの集りであった。また、時代の先どりもした。東京六本木の放送局にとびこみ強引

にその道の権威者金沢 覚太郎先生を招いて、テレビジョンと言ふのが出現するとその特性と公民館活動とのかわりには：。また、団地と言ふの

今には今の問題が多いことであらう。人と結びつきの学習、目まぐるしく変化する社会への対応、企業学習と類似施設活動との関連などテスト・アンド・エラーズをくり返して実践し続けていく中にその活路が見出されたいこうというものだ。集まらないとクドくより地域にとびこみ身を軽くして行動できぬものだからか。それにしてほ好きで好きでが第一だ。(元県公運副会長)



西ヶ谷 悟氏

その成果を住みよい地域づくりに活かす(自治能力の向上)ことである。学習と生活は不可分であり、生活は地域を離れては成立しない。生涯学習は単に個人としての人間が生涯にわたって学習を続けるという時系列的な学習だけを意味するものではない。時系列的な学習を価値的な学習と結びつけて「統合」した学習にしてこそ、今日的な意味の生涯学習である。生涯の各時期・各段階の生活領域を通じての学習を統合できる場は地域をおいて他にはない。公民館が現在実施し援助している各種の学習活動を生涯化し、地域に根ざしたものにしておくこと。そして、生涯学習に新しい地域づくり(コミュニティづくり)という方向性を持たせることによって、はじめて公民館でなければ、の生涯学習といえよう。

④地域づくりと公民館

地域づくりの主役は、地域愛と、自治能力豊かな住民である。学習を地域学習に編成し、学習を通じて自治能力を高めて、新しい地域づくり活動を促進援助していくことが、公民館の当面課題を解決する唯一の確かな方途であり、かつ公民館の原点である。

執筆者紹介

前十日町市公民館長

田村達夫氏

十日町市中条旭町在住



十日町市公民館主査

社会教育主事

小林宏行氏



媒介の集いと交流

の勳所

田村達夫 小林宏行

はじめに

高齢者のための学級や講座は
いまや花ざかり。
だからといって、趣味と娯楽
だけに終始していいという
わけにはいかない。

そんな問題に応えて、高齢者
のための勳どころを対談風にお
さえてもらった。

十日町高齢者学級

T 四年ぶりに社会福祉から社
会教育の仕事にもどり、一年
たった此頃は、如何。相変らず
多忙のことでしょう。

公民館では「市民の生活に根
ざした学習並びに文化活動を推
進する」という方針のもとに、
どんな学級、講座を開設してい
るんですか。

K 生涯学習の時代を迎え、公
民館四十年の伝統をどのように
継承、発展させるか、これが最
大の課題といえるでしょう。市
民の多様な要求にこたえるべ
く、懸命に取り組んでいます。

今年度本館では、主として市
街地の人たちを対象に、幼少年
対象事業(三)、青年学級(一)、
家庭教育学級(二)、成人講座、
市民大学講座、高齢者学級等を
開設しています。

T ところで、今年度の高齢者
学級のあらましを少し……。

63年度高齢者学級のあらまし

全体	一般教養	昔の衣食住生活を記録して残す。	毎月2～3回 午前(4月～3月)
	農園実習	畑作り(野菜・花植)	
グループ	焼物	手づくり作品を楽しむ	毎月2回 午後(4月～3月)
	手芸	暮らしに役立つ手作り作品を作る。	2つ以上の実 グループ学習 加わると 加わると 加わると
	詩吟	基礎を学び心身の健康を考える。	
	いけば花	技術を学び豊かな心を身につける	
	俳句	俳句を通して自然を表現する	
	写真	カメラを通して自然を表現する	
	習字	書きつけの技術を身につける	

市民体育館でのクラブ活動で、
親睦・奉仕は地域の老人クラブ
でというように、それぞれ使い
わけている積極的な人たちで
す。

年々参加者が増え、館内は高
齢者パワーに圧倒されています。

T そういえば七年前位のこと
だろうか……

高齢者学級の参加者は、豊か
な生活経験や知識・技能を身に
つけている人たちである。公民
館は、趣味・教育・文化の学習
活動を媒介として、高齢者が集
い、交流する場を提供する。こ
のような考え方で高齢者学級の
運営を切りかえたのが定着した
ということですね。

K 高齢者自身の仲間づくりと
生きがいづくりに助力をしてい
るということではないでしょう
か。

幾らかの工夫

T 高齢者には、多くの自由時
間があるわけだが、その体力を
考えてどのような時間帯に学級
を開いているんですか。

K 主催する学級・講座は、ほ
んど夜間ですが、高齢者学級
は、比較的公民館の利用頻度の
少ない平日の昼間に、全体学習
を午前九時三十分から約二時
間、グループ別学習は午後一時

三十分から二時間程度やってい
ます。昼食休みを二時間たつづ
り取って、仲間どうしの交流を
図るとともに、各自持参の昼食
を食べた後はゆっくり休息を
とっていただき、午後のグルー
プ別学習に参加してもらえよう
と配慮しています。

T 年間継続の学級となると、
自主的な運営のしくみが大切だ
とおもいますが……

K 職員体制などを考えあわせ
ると、参加人数も多いので大変
な部分がありますので、職員が、
手をぬける部分はできるだけ手
をぬいています。

つまり、つとめて、自主的な
運営ができるように、必要な役
員を選出してもらい、その役員
を中心に学級全体の運営ができ



館内での小さな写真展



【チビっ子公民館】でのワラダウリづくり指導

初任者講座 学習活動を

高年齢者学級

るよう定例会をもちます。役員は、全体では代表一名・副代表四名(男二・女二)、会計二名。グループ役員は、各グループ二〜五名からなり、その中に必要なところは会計も選出されます。

又、毎回当番も決められており、学習の準備、後片付けなどすべて自主的にやってもらっています。毎年継続するに伴い、高齢者の間から、自分たちに来るお手伝いは積極的にやろうではないか、との声が出るようになり、今日に至っていますが、公民館の担当にとっては大変ありがたいことです。

T 学習内容とか方法上の工夫をひとつ……
K 全体学習では、豊かな生活経験や知識・技能を次の世代へ伝え残すために、昔の衣食住生活を記録し残そうと学習に取り組んでいます。冊子にまとめることも考えています。

当館主催の「ふれあいチビっ子公民館」の指導もやってくれています。今までに、チマキづくり、豆腐、ワラダウリ、竹スキーづくり、けんさん焼など、今年は蕎麦づくり、チビっ子たちと挑戦し、種まきが終わったところまでです。

このように、世代間交流ができるよう、毎年、学級の中に組

写真コース

酒井一夫(西浦町東)

「高齢者学級」に入るきっかけは、やはり心身の老化予防であり、また、老後何か趣味をもち、楽しく生きるためでした。そして、趣味を少しでも向上させたいという期待もありました。

月二回の学習を続けてきて、今思うことは、男女、年齢の差もなく、共通の趣味を通じて友人交際ができたこと

み入れます。この時は高齢者のみなさんの眼の輝きが違いました。

公民館から少し離れた小高い丘の上に、農家から借用した畑(三〇〇㎡)に野菜や草花を作っています。老化を防ぐ為此のような農園実習も組み込んでいます。

学習をより楽しくする為に見学にも出かけます。時にはレクリエーションもとり入れます。

T 学習の成果を単に学級内だけのものにならないで、社会に還元し社会的な広がりを持たせるという事は、地域にとって極めて有意義のこととおもいますが、この点について……

が非常に良かったことです。講師先生はじめ先輩の方々の連携もよくとれ、仲間づくりとしてのコミュニケーションができたと思っています。

写真コースとしては、今後さらに活動を広げる意味からも、季節に合わせたいろいろな撮影場所に向いて勉強したいですね。また、作品の展示発表も積極的に計画し、できれば公共の場所や駅などの展示も考えていきたいですね。

K 学習成果の発表の場は、公民館まつりに各グループ別学習の作品を展示、発表します。一つの目標がないと、やはり張合がないようです。

公民館まつりの恒例となった、高齢者学級のみなさんの手づくりによる昔の遊び道具の即売も好評で、毎年すぐに売り切れの盛況です。作品を作ることから即売するまで、すべて自主的にやっています。

T 写真グループは、館内での小さな写真展を年数回実施しています。近いうちには市内の銀行ロビーで写真展を開催する準備を進めています。

です。K 各分野の特技を持ち、さらに高齢者の気持ちがあがり一緒に行動できる方をお願いしています。常任です。実態は講師というよりも、助言者、アシスタントの役割までしていただいています。

T ありがたいことです。ね。

ずばりポイントは

K ずばり「高齢者学級の成否の鍵は」。

T きわめて当り前のことだが、地域の高齢者の生活実態の把握とその心理の理解から始まる。としかいえない。あえて付言するならば、学級の主役は高齢者自身、職員は黒子であるの一語。

投稿歓迎

投稿を歓迎します。本紙の特集記事だけでなく、公民館月報のどの部分に関してでも、読後感とか、意欲・意見・質問など、どんなことでも結構です。本紙を、あなたと県公連との間を結ぶものとして役立ててください。

採用の文には粗品をさしあげます。

実践記録シリーズ

(26)

二町村広域事業の実践

出雲崎町和島村公民館共同事業

一、はじめに

例年のことではあるが、四、五月になると、近隣の町村の社会教育(公民館事業)の計画書が交換される。他町村の事業内容を見ると、我が町でも企画している同様の事業があることに気がつく。そのことから、かねがね考えてきたのが、同様同趣旨の事業であるならば、相互に提携して一つの事業として実施したら効果的なのではなからうかということである。経費の面

からも、企画する職員の側からも、また、何よりも参加者が、人数が増えることにより元気が出るであろうし、人的交流の活性化により、学習成果を高めることができるだろうと考えた。

このような仮設(発想)に基づいて、いくつかの事業を検討してみたが、地理的な条件(通館距離)で、実現は容易ではなかったが、幸いにも、距離的に最も隣接しており、しかも良寛に関する結びつきのある和島村と、成人教育講座を共同開設する道が開けてきた。

二、共同成人講座の開設
和島村の公民館担当者と十分に話し合いをし、両公民館が両教育委員会に事業予算を認めてもらい実現することになったのが昭和六十一年度のことである。

昭和六十一年度は、「鳥崎川」をテーマにした共同事業であった。実施計画は、講義六回で、三回ずつ出雲崎と和島村の両公民館が交互に会場を引き受ける

ことにした。講師の応対や謝金等はすべて統一金額とし、資料づくりも分担制とした。かくして、受講者を募集したところ、当初の予定人員を上まわる結果となり、しかも男子成人が多かった。男子成人講座は集めにくいというのが常識であるが、講座の内容や方法によっては自主参加を得られる証左といえよう。

この事業に自信を得て、昭和六十二年度は、「越後鉄道」をテーマに実施した。その意図は、和島村にあっては、「久須美秀三郎」なる鉄道敷設の偉人の業績を学ぶものであるし、「出雲崎町」にあっては、鉄道開通による経済変動の問題を学習することになり、両町村ともともに郷土の学習をしたいと思ったものである。よって前年度と同様の方法で開催した。

学習資料として、大正四年三月の「汽車時刻表」を現物と同じ大きさで複製して提供したり、新潟鉄道管理局へ研修に出

昭和63年度良寛講座学習計画表

回	月日	曜日	時間	学習内容	講師	会場	備考
1	4月3日	日	13:00-15:40	良寛と島崎史跡研修	全国良寛会 常任理事 小島正芳	和島村総合福祉センター	
2	6月6日	日	13:00-14:30	良寛と和歌	全国良寛会 常任理事 小島正芳	出雲崎町中央公民館	
3	8月7日	日	13:00-14:30	良寛と宗教	全国良寛会 常任理事 小島正芳	和島村総合福祉センター	
4	10月2日	日	13:00-14:30	良寛と出雲崎	全国良寛会 常任理事 小島正芳	出雲崎町中央公民館	懇親会(心月輪)実施
5	12月4日	日	13:00-14:30	良寛の漢詩	全国良寛会 常任理事 小島正芳	和島村総合福祉センター	
6	2月5日	日	13:00-14:30	良寛に魅せられた人々	全国良寛会 常任理事 小島正芳	出雲崎町中央公民館	

向き現在の鉄道の運行状況等特色の許可を得て見学させてもらうなど取獲も大きかった。これらの学習の成果は、両町村合同の事業として実施したメリットであろうと思っている。

本年度は、「良寛」をテーマに実施している。両町村の共同事業に関して、周辺に知れたためか、新潟市や長岡市からも参加の申し込みがあり、八十名を越える盛況さである。これは、テーマが「良寛」であることの魅力と、分りやすく指導・解説してくれ

る講師を用意したことによるものである。とにかく受講者には好評である。また、今年の講座開設の特色は、参加費三千円、受講者の中で役員を選出し、会計係・講師

係等を受け持ってもらっている。このような自主運営ができるようになったことや、講師と受講者との交流を深めるために、懇親会を企画したりしていることも好評を得ている理由の一つであろう。

三、まとめ

成人教育は、参加者が少なかったり講師の依頼に苦勞し、思うような成果が上がらないのが常である。だが、二町村で共同実施をすると、参加者の考え方の中に、相手町村の参加者に迷惑をかけないようにと欠席が少なく、役割分担においても積極的に行動するようになっていく。この点は思わざる成果であった。

経済的には、講師謝金にしる資料作成費にしる半額ですむ。参加者同志の行動も予想以上に積極的である。

反面参加者の交通手段に悩みがある。マイカーでない人が参加希望があっても参加できない悩みや、同乗を頼んでいた人が都合によって急に参加できないかたりと解決しなければならぬ点もある。

今後は、越後線沿線を中心とした町村で事業計画がもてればと願っている。

(出雲崎町中央公民館 社教主事 磯部友記雄記)



解説に耳を傾ける (隆泉寺にて)

90年代の公民館活動を考へる

三市中蒲原郡公民館大会から

パネラー
 (司会) 鴨井三郎
 中川 国保
 宮嶋 昌世
 山川 七三
 山口 穰

(横越村教育長)
 (村松町公民館長)
 (亀田町公選審委員)
 (新津市成人式実行委員)
 (県社会教育主事)

去る7月27日、横越村公民館を会場に、三市中蒲原郡公民館連絡協議会主催の公民館大会が開催された。公民館関係者百数十名の参加により終日熱心な研究討議がなされた。そのうち、パネル討議の要旨を簡略に紹介する(文責編集部)

中川 生涯学習の必要が叫ばれ公民館の役割はますます重要となる。そこで提言することは、

1 地域に根をおろし、住民の悩みを吸いあげ、学習の必要を掘りおこし、地域づくりの先兵となつてほしい。

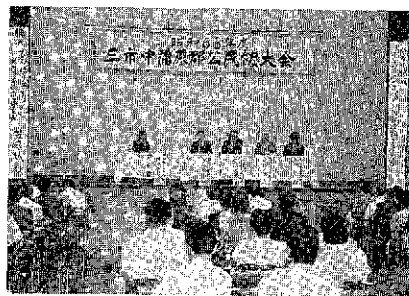
2 住民の中には公民館(の事業)を知らない者もいる。これではだめだ。情報の時代なのだから、町村の行政広報紙や、有線放送などを活用して公民館(の事業)を売り込むこと。そのためには売り込むに足る事業、つまり魅力ある事業を工夫することである。

宮嶋 公民館の実態は、予算や職員不足、休みもない状況だがこれでは、十分な仕事はできない。

1 90年代は、市町村の生涯学習体制を確立する時代である

十名の参加により終日熱心な研究討議がなされた。そのうち、パネル討議の要旨を簡略に紹介する(文責編集部)

う。そこでは公民館が学習のセンターになる。単発的・思いつきの事業でなく、生涯学習体系



の中に位置づけられた事業として整備を急がねばならない。

2 すぐれた公民館を視察すると、決つてすぐれた職員・指導者がいる。社会変化に対応し、柔軟な発想ができ、教育の仕事

のできる人材の育成確保に今から取り組まねばならない。

中川七公民館は館がデラックスになるにつれて、管理的で、魅力が薄らいでくる。

1 昔、「亀田まつり」を盛んにするため、公民館が仕掛人になつて、行政も民間も、唄い手も踊り手も、太鼓のたたきでも、みんな一丸となつて祭りを盛り上げたものだ。その一体感が忘れられない。町の活性化のために公民館は原点を思い出してほしい。

2 職員は事務屋にならないで、住民の心をつかむこと、そして、これから何が必要になるのか、の洞察力を養つてほしい。

山口 若者を公民館に引きつけるには魅力がなければならぬ。その魅力とは、

1 新入りでも気楽に若者グループの中に入り込めるよう開かれたグループにするよう、公民館職員の気配りが必要。また、例えばテニスなどの基礎を教えてくれる専門指導者を用意してほしいものと思う。

2 若者は高学歴者が多いから、「何かを教えてやる」ような事業には魅力がない。若者を刺戟するイベント(ギネスブックに挑戦)がほしい。特に、郷土愛をテーマにしたイベントなどに魅力を感じると思う。

栄町公民館主事

長谷川克志氏 (39歳)



ろうと思えばやる仕事は山程もある、やるまいと思えば、何もしない

四月の異動で社教係長として迎える。農業委員会勤務三年の手腕を買っていたものの、社会教育畑は初めて。当時の係長も就任一年これからと云うところ、無駄な抵抗は承知の上で、異動中止を町長に具申、しかし結果は明白。そして迎えた新係長。「社会教育に携る吾々は、や

くても済む。何か仕事をして文句を言われるか、何もせず、文句も言われず、の方が良いか? それは君の判断にまかせ」私の持論だ。しかし新係長は、やって文句を言われる方を選んでくれた。そして今、住民から何だかんだと言われ乍ら、次々と新しい事業を導入し忙しさに追われている。

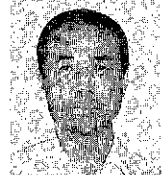
社教に手を初めて五ヶ月、楽しみの係長である。思いやりの心。社会的マナーの修得。敬老。これが彼の抱負である。(栄町公民館 楠 利雄記)

素顔 拝見

糸魚川市中央公民館副参事

島田 久男氏 (50歳)

昨年四月からの公民館勤務というからまだ一年五か月。それまでの職種が会計畑とおっしゃるから百八十度の転換ということだ。苦勞のほどが察しられる。



「公民館大会の現地事務局としてご苦勞様です。」

「公民館の経験が浅いのに大きな仕事を背負わされて大変です。でも、幸いなことに大会開催が十月ですから、十分な準備期間があつて助かっています。」

「公民館での本来の仕事は?」

「高齢者教育についてなので

が、それだけでは済まされません。職員みんなで協力しなければなりませんから。」

「公民館(仕事)の感想は?」

「とにかく、少ない職員で多方面の仕事をかかえているわけですから、自分(たち)だけでやるうと思つてはだめですね。地域住民の協力がなければ……、また、それが社会教育のねらつていることなのでしょうが」ととても一年とは思えぬ実践家の声が返ってきた。(上村記)



調査結果に見る 本県公民館の実情

県教育委員会では、県内の社会教育の現状を知るために、市町村教育委員会の協力を得て、毎年調査を実施している。本年度も五月一日現在で調査を実施した。その調査結果に基づき、今月号から三回シリーズで、①公民館職員の専任化のすすめ、②学級講座への取り組みに思う、③施設設備の充実、について説明してらう。

その一 公民館職員専任化のすすめ

県内の公民館数は本館が二百九十、分館が三百六十三あり、年々その数が増加しており、公民館の整備が着実に進んでいることが分かる。

また、公民館一館当たりの職員数は、専任、兼任、非常勤を合わせて三・四人である。この数は、十年前の三・二人とあまり変わっていない。更に専任職員だけに限ってみると〇・八人で十年前と全く同じである。

公民館が十分な教育機能を発揮するためには、施設の整備と共に人的体制の整備が不可欠である。その点から調査結果を見てみると、県内の公民館の今後の課題は、人的体制の整備にあることがわかる。特に専任職員の数が一人に満たない現状のままでは、質的によりレベルの高

い公民館活動を期待するのは困難なことと考えられる。

ところが、現在公民館活動に住民が求める要求は、多様化し、

高度化している。また、国の臨時教育審議会が生涯学習体系への移行を答申してから、公民館の果たすべき役割が重視されてきている。

さらに、社会教育分野への民間の進出は、内容の多様化、専門化をもたらした。その結果として、公民館活動への住民の要求水準も一段と高まり、公民館としてもこれらの要求にこたえる必要がでてきた。このような状況の中で、社会教育の分野を民間に任せてしまったという考え方もでてきている。しかし、民間活力の導入は必要であるが、教育の機会均等、教育の生涯拡散という生涯教育の考え方は、

から学習の機会の提供を保障することは、行政の役割である。その意味で、民間との連携、協力を効果的に進めながら、公民館活動の活性化と質的な充実を図ることが重要である。

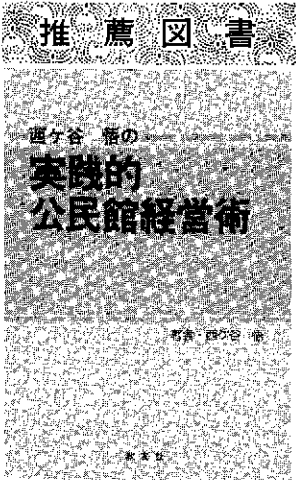
そのためには、人的体制の整備が急務であり、特に職員の専任化が当面の重要課題であると考えられる。財政上の問題など困難なことが多々あるかと考えられるが、各市町村当局の長期的視野に立った英断が望まれる。

(県社会教育主事 斉藤 和夫)

実践的公民館経営術

—何をどうやるか—

西ヶ谷 悟著 教友社



来月開催予定の県公民館大会の講師西ヶ谷悟氏の著書である。

西ヶ谷氏は、つとに「生涯学習の原点は生活にある」とされ、その生活の基盤である地域と公民館との関係について実践的に研究を進めていられるその道の権威である。

本書は、全体を八章で構成し、一章から四章までは、公民館の今日的な性格・経営管理・活動の企画と展開・コ

ミュニティづくりと公民館について解説している。五章から八章では、職員・予算と経理・運営委員会運営・関係機関団体についてふ

刊行されて七年を経過しているが、今こそ本書の実践的解説が説得力を持つ。公民館関係者の必読の書である。

(A5判・三八四頁、定価三千円、お申し込みは送料三百円を含めて県公連事務局へ)

お知らせ

高齢化社会問題

シンポジウムへのお誘い
テーマ「人生80年時代
幸せに生きる道は何か」

日時 昭和63年10月5日(水)
午後一時～四時半

会場 新潟市 県民会館小ホール

入場料無料
主催 高齢化社会研究協会

地域生活研究会
プログラム

〇基調講演 那須宗一(淑徳大学学長)

〇パネルディスカッション 浅妻康二(新潟薬科大学教

授)ほか五名登壇

詳細問い合わせは、
地域生活研究会(電話)三三三-
三二五三)又は、県公民館連合
会事務局へ

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下 清一

編集人 事務局長 上村 拾二郎
【定価1部120円 年共1,440円】